

平成31年度3年次編入学

小論文問題

注意事項

1. 開始の合図があるまで問題用紙を開けてはいけません。
2. 問題用紙・解答用紙の定められた欄に必ず受験番号を記入下さい。
3. 問題用紙と解答用紙は別々になっています。表紙は切り離さずに解答下さい。
4. 問題用紙は表紙を入れて2枚、解答用紙は1枚、その他に下書き用紙が1枚あります。
5. 解答時間は60分です。
6. 解答は解答用紙に横書きで記入下さい。

受験番号	
------	--

平成 31 年度国際政策学部 3 年次編入学試験

小論文 問題

【問題】 下記の文章は、欧州を中心にプラスチックごみによる環境汚染への取り組みが進み始めたことを伝える新聞記事の、最後の部分からの抜粋です。表 1 と表 2 は海洋プラスチック問題の現状と今後に関する資料です。新聞記事と 2 つの表を見て、問題点とその解決策について、あなたの考えを 800 字以内で論述しなさい。

6月上旬にカナダで開かれた主要7カ国（G7）首脳会議では、カナダと欧州勢が「海洋プラスチック憲章」を採択した。消費削減の数値目標などが盛り込まれたが、日本は産業界との調整に時間がかかるなどとして米国とともに署名を見送り、環境保護団体から批判を浴びた。

国連環境計画（UNEP）によれば、日本は人口1人あたりのプラスチック包装によるごみ発生量が米国に次いで多い。消費量を抑えるための取り組みが今後、企業や市民に求められそうだ。

資料：「欧州、脱プラスチック加速 使い捨て禁止海洋汚染防ぐ」『日本経済新聞電子版』2018年6月20日より。

表1：陸上から海洋に流出したプラスチックごみ発生量（2010年推計）

順位	国名	万トン／年*
1位	中国	353
2位	インドネシア	129
3位	フィリピン	75
4位	ベトナム	73
5位	スリランカ	64
：	：	：
20位	アメリカ	11
：	：	：
30位	日本	6

*海岸から50Km以内に居住している人々によって不適正に処理されたプラスチックごみ推計量

資料：環境省「海洋プラスチック問題について」2018年7月をもとに作成。

表2：

